

ほつかいどう NIE 通信

発行 北海道NIE推進協議会

第 78 号

発行 北海道NIE推進協議会 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826



NEの取り組みを報ずる道内のアドバイザー、事務局長ら

高辻清敏・北海道NIE推進協議会会長をはじめ、道内の7人を含むアドバイザー16人、各道県の協議会事務局長・事務局スタッフらが参加。冒頭、寺沢純日本新聞協会・博物館NIE委員会副会長（北海道新聞経営企画局長）が歓迎のあいさつをした。

年ほどNIEに取り組んでいる。昨年の（早来小での）公開授業の際、NIE事務局から安平町教育長に呼びかけていただき、保育園など幅広い分野から多数の参加があった」と発言。「今後は教育委員会とつながり、町ぐるみの活動にしたい」と意欲的に話した。高橋恒雄教頭（小樽朝里中）が「学校図書館とタッグを組んで新聞を使った校内掲示を充実させた。今年4月から配

日本新聞協会主催の「北海道東北ブロックNIEアドバイザー・事務局長会議」が10月3日、北海道新聞社で開催された。東北6県と道内から34人が参加し、行政や関係組織と連携してNIE活動を拡大するなど各地の現状とアドバイザーの役割について意見を交わした。ブロック会議は2010年から持ち回りで開かれており、道内の開催は初めて。（関連記事4面）

北海道 東北 札幌でアドバイザー会議

実践の推進「連携」が力ギ

一方で福沢秀教頭（富良野西中）は、「前任校で朝のNIE活動を続けたが、私の転勤後は続かなかつた」と、継続の難しさを話した。野上泰宏校長（浦幌町立上浦幌中央小）も個々の教員やアドバイザーの奮闘に触れつつ、「教育委員会の関心がいまひとつ。十勝に教員の新聞教育研究会があるが、全道や全国とのつながりがない」と、課題を指摘した。

芽室西小の三上智弘教諭が4年生の道徳の授業「命あるものを大切に」を公開した。同じ管内の上士幌町長は道内各地で開催して

いる地区セミナー、北海道新聞としての出前講座・インターネット・シンポジウムなどについて報告した。

捨て犬の記事 道徳の授業に 十勝新聞教育大会

育研究大会が11月4日、十勝管内芽室町立芽室西小で開かれた。北海道十勝新聞教育研究会（小沢一記会長）と北海道NIE研究会（上村尚生会長）の主催。管内や札幌の小中高教諭ら約70人が、効果的な新聞の活用法を探った。

芽室西小の三上智弘教諭が4年生の道徳の授業「命あるもの大切に」と「命がないもの大切に」を大切にした。鹿追町立瓜幕中の掛水成幸教諭が実践を発表した。かべ新聞作りのほか、小中学生が一緒に受ける連携授業では「中学生が小学生をサポートしている」と説明した。閉会式で、北海道NIE推進協議会の開発好博コーディネーターは「新聞活用は学校挙げての取り組みが重要」と総括した。



記事を通じて命の大切さを考えさせた三上智弘教諭(右)の公開授業＝芽室西小4年2組

独自の切り口が高く評価され、兄弟でそれぞれの部門の最優秀賞を受賞した、押切健さんの作品(写真左)と優さんの作品



地図やクイズ光る工夫 道北新聞スクラップに353点

新聞記事のスクラップを通じて社会に関心を持つてもら「第5回道北小中学生新聞スクラップコンクール」(北海道NIE研究会道北支部主催)の入賞者が9月26日、決まりました。優さん(旭川・士別・美瑛などから353点の応募があり、戦後70年と平和などのテーマを設けて記事を切り抜いたり、自分なりの見出しをつけたりするなど、工夫を凝らした作品が集まつた。中でも、旭川の押切健(たけし)さん(東明中1年)、押切優(ゆうし)さん(東光小4年)の兄弟は、

新聞記事のスクラップを構成に仕立てた。優さんは、道内市町村の記事を集め、自治体の場所を地図で表し、カントリーサインも紹介するなどし、楽しいスクラップにした。菊池安吉審査委員長(士別中校長)は「2人とも記事を自在に加工し、自分のものにしている」と高く評価した。このほかの最優秀賞と学



地域への愛情 文面にあふれ

「中学1年の部」「小学1年部」でそれぞれ最優秀賞に選ばれた。健さんは、「最優秀賞▽小学5年6年▽旭川・東光小5年▽中2 浅野富仁(旭小)

校賞、アイデア賞は次の通り(敬称略)。
◇最優秀賞▽小学5年6年▽旭川・東光小5年▽中2 浅野富仁(旭小)
新聞NIE委員会など主催の「2015年どうしん私とぼくの小学生新聞グランプリ」の入賞者が10月10日に発表された。全道から1万466点の応募があり、参加した小学生は1万3630人だつた。最高賞6点を含む入賞36点のほか、入選100点、佳作500点、学校賞10校が選ばれた。

作品は、知床でのヒグマと人との共存や戦後70年をテーマにしたもの、砂金掘りに行つた体験を軸に話題を広げるなど身近なことから発展させたものなど多彩な内容が集まつた。最高賞の一つ、芝垣美里さん(札幌市西区・西野第二小6年)の「リハビリ新聞」は、祖父が通うリハビリセンターに取材に行つて、さまざまな介護の工夫やサービスを紹介している。

